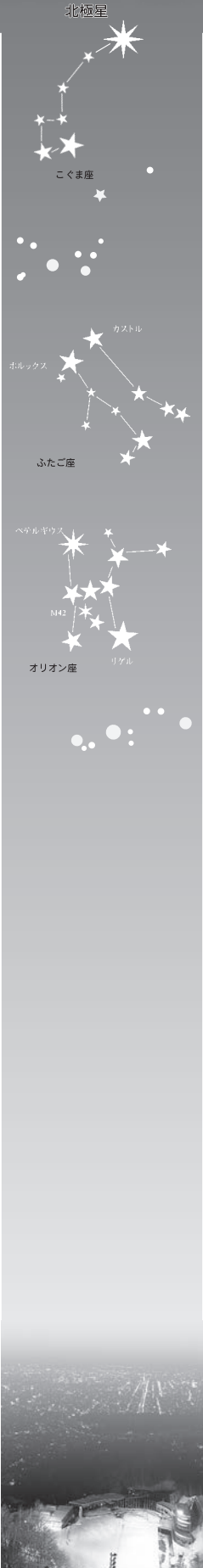
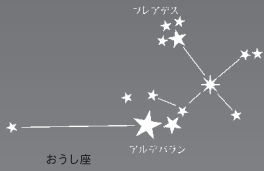


ポラリスを仰ぐ北の大地から



AIとの付き合い方

渡島医師会 会長 宮村 拓郎

「ア〇ク〇、今日の天気は?」「ア〇ク〇、今日のスケジュールは?」と居間に置いてあるスピーカーに向かって呼び掛けるのが、最近の私の朝の習慣になっています。ご存知の方が多いと思いますが、ア〇ク〇というのは私が使っているスマートスピーカーの名称です。スマートスピーカーとは、AI(人工知能)を搭載した据え置き型のスピーカーの総称ですが、声で指示するだけで、好みのジャンルの音楽を簡単にかけたり、インターネットに接続された家電の操作や、無線リモコンの代替操作を声かけだけで行うことができます。

AIが社会や産業に普及することで、私たちの生活はどんどん便利になりますが、AI導入で新たに生まれる仕事より奪われる仕事の方が多いのではという心配があります。実際には、雇用全体に及ぼす影響は長い目で見る限りさほど大きくはないとされていますが、一時的にはかなりの雇用が影響を受けることは間違いないでしょう。医療の分野については、AIが医師に取って代わることはないでしょうが、AIが診療の補助をすることは、医師の診療の効率化と共に病気の見逃しの防止になるでしょうし、特に画像診断補助には有用とされます。

山中伸弥氏と羽生善治氏の対談本「人間の未来 AIの未来」の中で、AIができないことは、人間の直感、ひらめきにあたる部分ではないかと両者の意見は一致しています。実際の診療において、症状や検査成績からはある一つの病気が示唆されますが、何か違和感を覚えたり別の病気が隠れていそうな感覚を持った経験はないでしょうか?そしてそのひらめきに救われたことはないのでしょうか? AIが医療に広く利用される時代となっても、冷静で論理的に診断を下すことはもちろんですが、ひらめきや直感という感性も大変重要であると感じています。

頑張れ

北部檜山医師会 会長 森 利光

6月の初めパリに1週間滞在しました。全仏オープンで大坂なおみを見るためです。会場の近くにアパートを借り、女子準決勝のチケットを前もって入手。行きの飛行機の中で大坂なおみの2回戦敗退を知りガックリ。

妻はwowowでマイケル・チャンのテニスレッスンを撮りためているほどのテニス好きです。雨で試合が中断したり、日没順延になったりで翌日の試合進行は当日でなければわかりません。その度に切符がリセールされることを現地で気づきました。妻は人が変わってしまったようでした。朝5時からインターネットの前でチケット入手競争に加わり、勝利すると10時にはアパートを出て途中の店でパンと水を買って会場に入るのです。プリスコバ、ハレブ、アニシモワ・・・私には聞いたことのない選手名に妻は狂騒しつつ9時半の日没まで試合に夢中です。早々にひとり引き上げ途中の肉屋や野菜屋で材料を買ってアパートでこれぞ本場ラタトゥイユだ!とワインを飲みながら作りました。それでもナダル、ジョコビッチ、錦織や上地結衣の試合を観戦し、レジェンドマッチでマッケンローとチャンのダブルスを見ることもできました。

いろいろな席で応援しましたが、一番よかったのは最上階での応援でした。さまざまな国の人が大声で応援しているのです。その度に審判に*S'il vous plait!* 静粛に!と注意されるのです。まるで天井桟敷にいるようです。頑張れケイという日本人の応援に周りの外国人もガンバレと合わせてくれました。フランスの青年にガンバレってどういう意味ですかと質問され、Do your best, と答えました。どうもじっくりこない。Allezの方が合ってるかも。いけ!ケイ。でも「頑張れ」には、元気出してとか、我慢しろとか、あるいは祈りに似た呪文のような響きがあります。あまり好きな言葉ではありませんでしたがパリでは新鮮に感じました。